

対談／平岡議員、西本議員が聞く

芸術文化の展望

表紙写真／話をお聞きした皆さん

今回は、芸術文化（美術）の振興に尽力されている皆さんに、インタビューをしてきました。

芸術文化（美術）に対する市民の関心度や本市の取り組みに対する思い、今後の展望についてお話をお聞きしました。

プロフィール



広島大学 名誉教授
専門分野：絵画
難波 平人さん



広島大学 准教授
専門分野：美学・芸術学
薬島 秀樹さん



広島国際大学 講師
専門分野：彫刻
正司 強さん



東広島市立美術館
館長
佐々木 信行さん

本物に親しむ場の創出と仕掛けが 芸術を愛する市民をつくる原動力になる。

Q 芸術に対する市民の関心度、文化度をお聞かせください。

正司 東広島には、世界に誇れる作家がいます。作品もあります。しかし、それを知る場や機会が他の都市と比べてまだまだ少ないと感じています。そ

う事も含め、多くの市民の関心度、文化度は高い水準にあるはずなのに、それを地元で生か

切れない不完全燃焼の状態にあるのではないのでしょうか。

難波 藤岡文化課長、美術館の館長さん、学芸員の人も歴代見

ていて優秀なんです、市民が動いていかないと美術的な人口

が伸びないことを実感してきました。何かイベントみたいなものを打たないと、発展しないという思いを強くしているんです。

また、教育的には東広島は全

国のトップだという話を聞いているんですが、それは教育の学力がトップということで、文化的、美術に関しては、少し疑問視をしたいと思います。

Q 市の芸術に対する取り組みについてお聞かせください。

桑島 東広島市立美術館は西日本有数の版画コレクションを持っているが、そのことを市民は認識していなかった。所蔵作品を見て、アレンジしてどう提供するかを考えられるよう



な、*1 グローカルな視点を持った、ブレない企画ができる人を育てる、あるいは雇うべきだというのが僕の考え方です。

Q 今後芸術分野をどのように展開したらよいですか。

難波 市民の研修室がないとすぐ訴えられているんです。みんなが計画して学ぶ教室や、常設展は当然ですが、地方作家や、もっと偉い人でもいいんですが、その方達だけを集めた特別室。こういった設備を他の美術館は持っています。そういうものを視野に入れた新美術館を早急に検討していただきたい。

佐々木 一番大きな課題は、子どもたちが来ていない現状です。小学校で聞いても東広島市立美術館に行ったことがある人は、ほとんどゼロです。県立美術館、これもゼロ。ヨーロッパでは、13歳ぐらいまでに美術館、博物館に行った経験がない人は、大人になっても行かないそうです。長期的展望に立てば、小学生、中学生の間に本物に触れてほしいです。

Q 最後に何か、一言お願いします。

桑島 東広島市は学力ナンバーワンになってきている。学力も高いほうがいいかもしれないけれども、*2 EQナンバーワン都市みたいな、何か情操教育、感情面でもここがナンバーワンなんだっていうのを市が宣言して掲げられないかなと思った。だから、学校制度の中にまで踏み込んで、何か提言できるような指針を示すべきだと思います。

難波 東広島は版画はすごくいいんです。成果も進んで素晴らしい、でもこれは予算が少ない苦肉の策であって、もっとお金をつぎ込んでほしい。油絵なんか本当欲しいんですよ。ほかの美術館に比べ、ほとんどないです。やっぱり全て平均的に充実した美術館にしないと。

できることは、我々作家も協力すると思うので、教育行政も含め、文化を打ち出す役割、姿勢を強くしてほしいと思いますので、どうかお願いします。

*2 【用語解説】EQ (Emotional Intelligence) 心の知能 (自分や他の人の感情を知覚や感情をコントロールする知能) を測定する指標。

*1 【用語解説】 グローカル グローバル (世界規模の) とローカル (地域的な) を掛け合わせた造語で、国際的かつ地域視点を持つ考え方。